

異文化接触が岩国市民の意識変容に及ぼす影響

—岩国市英語交流センター（PLAT ABC）における岩国基地や市内在住外国人との交流を通して
永木 健一

1. はじめに

岩国市は、山口県東部に位置し、広島県との県境にある人口約12万5千人の街である。極東最大級の航空基地である米海兵隊岩国航空基地が所在していることで、市の人口の約1割に当たる約1万3千人の軍人軍属とその家族が居住している。基地関係者は、2、3年のサイクルで世界各地を移動しており、基地のある街、特に岩国市にはさまざまなアメリカ文化がもたらされている中で、岩国市民と基地住民との間でさまざまな交流活動が行われている。

基地と言えば、騒音や事件事故などのマイナスイメージがあるが、岩国市は、基地関係者を「よき隣人」として、地域の資源として活用するさまざまな「まちづくり計画」を行っている。平成31年には内閣府から地方再生計画の認定を受け、英語特区として「英語交流のまち iwakuni 創生プロジェクト」を開始しており、英語教育や英語を核としたまちづくりを進めている。

筆者は、本プロジェクトの計画当初から携わっており、幸いにも多くの市民や基地関係者と接することができた。令和4年3月、基地関係者を含む市内在住外国人と市民間の自然な交流を生み出す交流活動の拠点として、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）を供用開始しており、異文化へ理解や国際意識の変化、コミュニケーション力の向上などの点について、どのような意識変化が現れるのかを明らかにすることを試みる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）を利用することによる市民の意識変容を調査によって明らかにすることである。さらに、その結果をもとに今後の活動のあり方について考察するとともに、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）に対し提言を行う予定である。

3. 着想に至った経緯、課題設定の理由

筆者は、これまでさまざまなイベントを企画運営する中で、参加者の英語に対する興味関心を持たせる手法の検討を行ってきた。今回、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）のさまざまな交流事業を通して、異文化理解や国際意識の変化、コミュニケーション力の向上などの点について、どのような意識変化が現れるのかを実践を通して考察を加えたい。そして、この事業の効果検証として、市民の内面にどのような変化が生じているのかを明らかにしたいと考える。

4. 岩国市英語交流センター（PLAT ABC）の施設コンセプト

○学びのセーフティーネット

参加料は、実費相当分を除き無料とし、全ての者への学習機会の確保

○自然な交流を生み出すため、飲食をマストアイテムと定義

市の事業として、飲み物やスイーツなどを販売

○設えの重視

公共施設のイメージを覆す、ブラックを基調としたおしゃれなカフェイメージ（アメリカンインテリア）

○全国に存在しない基地関係者との交流施設

全国に類を見ない施設を運営するため、首都圏のエンターテインメント企業（合同会社 DMM.com）を誘致

5. 岩国市英語交流センター（PLAT ABC）の開催イベント（一例）

| イベント名 | 内容 |
|------------|--|
| ボードゲーム大会 | 国籍を問わず誰もが気軽に遊べるボードゲームによる日米交流会 |
| プログラミング体験 | 子ども向けのプログラミング教材を使った体験イベント |
| 日米文化交流イベント | 書道や正月文化、ハロウィン、クリスマスなど日米共通の行事を楽しむ交流イベント |
| 英語で絵本読み聞かせ | 未就学児親子やプレママ・プレパパをターゲットにした英語の絵本 |

| | |
|--------------------|---|
| | 読み聞かせイベント |
| コミュニケーションワークショップ | 学生や社会人向けに、コミュニケーションやチームビルディングなどを学べるワークショップ |
| ハンドメイド・クラフトワークショップ | アクセサリや手芸、フラワーアレンジ、クラフト、アートなど初心者でも手軽にできる親子で楽しめるハンドメイドワークショップ |
| イングリッシュ・キャンプ | アクティビティーを通じた英語体験 |
| 国際交流カフェ | 身近な話題による交流 |

年間来場者は約3万人で、供用開始後、約9万8千人が来場している。そのうち、イベント参加者は、年間5千人程度で、日本人が3千8百人、外国人が千2百人となっており、順調な滑り出しとなっている。

6. 岩国市英語交流センター（PLAT ABC）におけるアンケート調査の実施・結果

研究上の問い、仮説については、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）のイベントに参加したり、施設を利用したりすることにより、児童、生徒、一般市民の英語に対する態度がどのように変化するのか。

具体的には、利用することにより、どのような意識変容があるか、以下のとおり仮説を考えた。

- 英語への興味関心を持ち、英語に対する学習意欲が芽生え苦手な人も抵抗感が少なくなる。
- リカレントや子どもたちのキャリア形成につながるようになる。
- 基地関係者などの外国人と交流しようとする意識が芽生える。
- 他者への思いやりや配慮をしようとする意識が持てるようになる。
- 世界や異国の文化に目を向けられるようになる。

(1) アンケートの概要

| | | | | |
|--------|------------------------------------|-----|-----|------|
| | 小学5・6年生 | 中学生 | 高校生 | 一般市民 |
| 標本数 | 22 | 20 | 11 | 81 |
| サンプリング | 岩国市英語交流センター（PLAT ABC）イベント参加者、施設利用者 | | | |
| 調査手法 | 施設で質問紙配布、回収 | | | |
| 実施時期 | 令和6年7月～令和7年3月 | | | |

(2) 小学生、中学生、一般市民の相違

いずれの属性も、外国人とのコミュニケーションや交流を望んでいる。

| | チェックリストの特徴 |
|------|--|
| 小学生 | 英語が得意、不得意な人も「もっと英語を勉強したい」という意欲が生まれている。積極的にスポーツやゲームなど身近なアクティビティでの活動を望む。 |
| 中学生 | 「将来、英語が役に立つ」と認識 外国人の英会話教室の参加を希望する一方で、身近なアクティビティでの活動も望む。 |
| 一般市民 | 英語が得意、不得意な人も「もっと英語を勉強したい」という意欲が生まれている。市の施策として、外国人との交流促進を望む。 |

| | 自由記述（抜粋） |
|------|--|
| 小学生 | 英語の勉強が楽しい。たくさんゲームがあって楽しい。英語を少し話せるようになった。海外や岩国基地に行ってみたい。もっと英語を勉強したい。英語を使う社会が当たり前になる。 |
| 中学生 | もっと英語を勉強したい。ここで英語が好きになれそう。もっと参加できるイベントを開催し学べるようにしてほしい。おしゃれな施設で勉強できて楽しい。カフェがおしゃれでまた利用したい。 |
| 一般市民 | 楽しみながら英語が勉強できる。少しずつ自信をつけたい。アウトプットの場として活用したい。英語力の不足を認識した。基地がある街ならではの施設。入りにくい雰囲気。 |

| | |
|--|--|
| | 駐車場が不足。交流までは繋がっていない。どのように活用したらいいのか不明。カフェメニューも充実して雰囲気もいい。 |
|--|--|

7. 先行研究

(1)モチベーションとは、

内発的モチベーションは、興味関心、自己実現などによるもの

外発的モチベーションは、報酬、評価などによるもの

(2)内発的モチベーションの先行研究

長谷川 (2016) :モチベーションに影響を与える要素は、プラスイメージ、好意的な気持ち、成功体験である。

宮房ほか (2023) :前向きな意欲と抵抗は混合状態、自己理解のための新たなツール開発の必要性があるとされており、岩国市英語交流センター (PLAT ABC) は内発的モチベーションに寄与するものと考えられる。

8. 効果検証、課題、提言

| | 肯定的な意識変容 (自由記述から) |
|------|---|
| 小学生 | 英語の学習意欲、キャリア形成、コミュニケーションや交流意欲、世界や異国の文化に目を向けること。 |
| 中学生 | 英語の学習意欲、キャリア形成、コミュニケーションや交流意欲 |
| 一般市民 | 英語の学習意欲、リカレント、コミュニケーションや交流意欲 |

アンケートの自由記述から、上記について、肯定的な影響を与えることが示唆された一方、

| | 課題 (自由記述から) |
|------|----------------------------------|
| 小学生 | 他者への思いやりや配慮する意識 |
| 中学生 | 世界や異国の文化に目を向けること。他者への思いやりや配慮する意識 |
| 一般市民 | 世界や異国の文化に目を向けること。他者への思いやりや配慮する意識 |

課題について、世界や異国の文化に目を向け、他者への思いやりや配慮する意識を持つ視点が欠けており、新たな仕掛けが必要であるとわかった。

また、「おしゃれな施設で英語が勉強できて楽しい」など、施設の設えも重要な役割と証明されている。

一方で、「入りにくい雰囲気」、「施設を知らない人は多い」、「外国人との交流まではつながらない」など、周知、仕掛けに課題があった。

先行研究から、学習意欲の成功は内発的モチベーションが深く関係しており、モチベーションの向上には、岩国市英語交流センター (PLAT ABC) が一つのツールとして大きな成果と証明される。

○今後の方向性

自由記述からの課題に対して、岩国市英語交流センター (PLAT ABC) へ活動内容の工夫改善を提言し、運営スタッフ、教職員、日米協会岩国などからインタビューを実施する予定である。

一方で、アンケート調査回答数が少ない課題については、アンケート実施期間の延長や利用者に対する聞き取り調査を行うなど、これまで収集及び集約できてない内容の分析を行う。

9. 参考文献

長谷川孝子 (2016). 「日本語学習者のモチベーションに関する意識調査 : L2モチベーション研究のためのパイロットスタディ」『立教大学日本語教育実践研究』第3号, pp. 116-126.

宮房寿美子, Fritz, R., Shaules, J., Schmidt, M. G. (2023). 「モチベーションの混合状態 : 外国語学習における学習者の抵抗と前向きな意欲に関する考察」『東洋学園大学紀要』第31号, pp. 50-64.